

## 『自動車整備士 1級小型筆記 問題と解説 令和元年版』 に関するお詫びと訂正のご案内

『自動車整備士 1級小型筆記 問題と解説 令和元年版』の内容について誤りがありましたことを、心よりお詫び申し上げます。以下の通り訂正致しますので、お手持ちの本書に加筆訂正をお願いいたします。

ご迷惑をおかけ致しまして誠に申し訳ございません。よろしくお願い申し上げます。

第2章 エンジン 3. リニア信号センサ <b>2</b> 温度センサの計算問題 61ページの最初 <b>【2】計算式 ④</b> のつづき	誤	この並列抵抗は <b>□</b> 1.5kΩの抵抗と直列に接続してあるため、並列抵抗の分圧は次のとおりとなります。 $\text{分圧} = \frac{1.0\Omega}{1.0k\Omega + \square 1.5k\Omega} \times 5V = \frac{5.0}{2.5} V = 2V$
	正	この並列抵抗は <b>□</b> 1.5kΩの抵抗と直列に接続してあるため、並列抵抗の分圧は次のとおりとなります。 $\text{分圧} = \frac{1.0k\Omega}{1.0k\Omega + \square 1.5k\Omega} \times 5V = \frac{5.0}{2.5} V = 2V$
第2章 エンジン 3. リニア信号センサ <b>2</b> 温度センサの計算問題 64ページの中ほど <b>【3】計算式 ③</b>	誤	この並列抵抗は <b>□</b> 1.5kΩの抵抗と直列に接続してあるため、並列抵抗の分圧は次のとおりとなります。 $\text{分圧} = \frac{0.75\Omega}{0.75k\Omega + \square 1.5k\Omega} \times 5V = \frac{1}{3} \times 5V = \frac{5}{3} V$
	正	この並列抵抗は <b>□</b> 1.5kΩの抵抗と直列に接続してあるため、並列抵抗の分圧は次のとおりとなります。 $\text{分圧} = \frac{0.75k\Omega}{0.75k\Omega + \square 1.5k\Omega} \times 5V = \frac{1}{3} \times 5V = \frac{5}{3} V$
第2章 エンジン 6. スイッチング駆動アクチュエータ <b>4</b> ボルテージ・ドライブ式インジェクタ(外部レジスタ) 109ページ <b>！ポイント解説【1】</b>	誤	<b>【1】</b> 2. 駆動停止条件時にV4に12Vが発生しない場合、測定端子より電源側の配線や部品に、断線が発生しているものと考えられる。また、測定端子よりアース側にあるエンジンECUやアース線の異常も考えられる。
	正	<b>【1】</b> 2. 駆動停止条件時にV4に12Vが発生しない場合、測定端子より電源側の配線や部品に、断線が発生しているものと考えられる。また、測定端子よりアース側にあるエンジンECUや <del>ア</del> アース線の異常も考えられる。
第3章 シャシ 6. オート・エアコン <b>2</b> リニア信号センサ 323ページ <b>！ポイント解説【4】</b>	誤	<b>【4】</b> 4. 仮に信号線が断線している状態では、V2=0V、V5=約5Vとなる。また、信号線が地絡している状態では、V2=0V、V5=0Vとなる。信号アース線が断続している状態では、V2=0V、V5=約5Vとなる。従って、…(略)…
	正	<b>【4】</b> 4. 仮に信号線が断線している状態では、V2=0V、V5=約5Vとなる。また、信号線が地絡している状態では、V2=0V、V5=0Vとなる。信号アース線が <b>断線</b> している状態では、V2=0V、V5=約5Vとなる。従って、…(略)…